

ひざ関節症の診断基準に

X線画像の解析システム開発

厚生労働省は、長寿科学総合研究事業としてひざ痛をはじめとする関節症の診断基準について研究班を設置している。画像解析技術

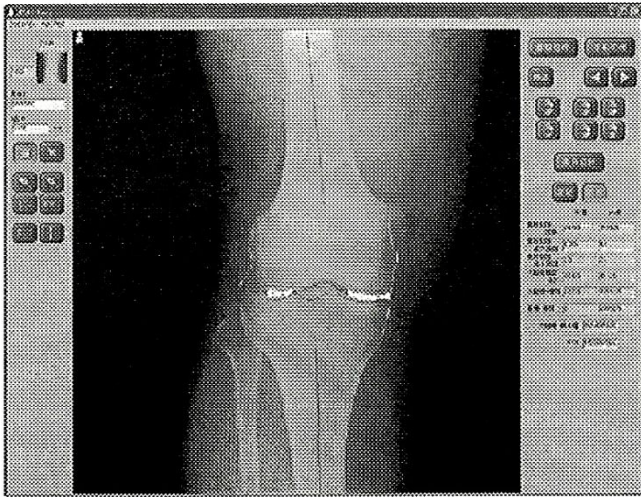
定できる画像解析ソフトを開発した。

による診断では、研究班メンバーの岡敬之東大助教授らがX線写真から変形性関節症の危険度を3段階で判

断できる画像解析ソフトを開発した。ソフトは、広島県で測定器や画像処理システムを開発・販売するイノテックと共同開発したもので、関節

するなど学術的にも評価を受けるとともに、同学会出席者からX線の解析依頼を受けている。

受けたという。岡教授は、「このソフトを利用して、データを蓄積することにより変形性関節症の客観的な重症度指標を確立し、新たな治療法や予防法の効果判定に利用できるものと考えている」としている。



ひざの画像解析システム

出る。従来のX線読影では評価者内および評価者間の評価にばらつきが大きいことが問題となっていたが、数値化することによって、診断基準となる。日本骨代謝学会では、平成19年度研究奨励賞を受賞